

# 道博協ニュース

## 第2号

発行 昭和49年3月1日  
発行所 北海道博物館協会(事務局)  
札幌市白石区厚別町下野幌  
北海道開拓記念館内  
011(891)0456~9

### 博物館活動への提言

北川 芳男

博物館の仕事にたずさわるといって、五、六年の歳月が流れて、かれこれ五年の歳月が流れて、自分なりに新しい博物館の創造をめざして、多面的に動いてきたつもりである。しかし、現実はいまもむきや、当初考えた方向とおもむきを異にする場面も多い。ともかく、博物館の活動のむずかしさが身にしみて感じられるこの頃である。

私が目標とする新しい博物館は、ひとくちに「大衆のための、さらに進んで大衆自身が創りあげる文化の殿堂」であり、別の側面からみると、「研究と普及の活動が統一された共に学ぶ広場」なのである。頭のなかでこんなイメージを画くことは簡単である。しかし、「大衆のため」とか「大衆的」とは、具体的に何を基準に判断するのか、と問いつめられると、ぐっと返答につまってしまう。

開拓記念館の展示は、その斬新な展示技法が功を奏し、多くの人々の好評を拍している。その意味では、きわめて

「大衆的」な展示である、と自負したいところだが、展示の計画から設計、施工までの過程を振り返ると、われわれ自身、そんな大きな願もできない。

記念館の展示は、シナリオを各テーマごとに専門の先生に依頼し、デザインはデザイングループの先生方が担当した。展示の設計が進むにつれ、デザイングループと各専門分野あるいは博物館学的立場にある先生方やわれわれとの間で、かなり激しい議論のやりとりがあったのである。「デザインサイドで、内容を変えられは困る」「むずかしい、むずかしい」といつても、この展示は博物館の展示で、博覧会ではないなど、種々の意見がとびだした。

開館後の直接的な批判を予想したわれわれは、年末の休みを返上して設計の全面的な改正案まで作り上げたほどであった。いうまでもなく、問題の焦点は展示のデザインに表れにあらわれたわけである。たしかに、このデザイングループ

の面々は、博物館展示を手掛けるのは、はじめてで、もちろん、「博物館学」的には素人であった。したがって、われわれが考える学問的あるいは教育的なセンスではなく、むしろ視覚に直接訴える芸術的感覚を優先していたわけである。そして結果的には、それが成功したといつてよいであらう。このことは、われわれに、「大衆的」あるいは「大衆のため」という内容を具体的に教えているような気がしてならない。つまり、われわれは、「大衆的」と口にしなから、それを具体化する段階では、すでに一段高いところに腰を据え、学問的とか教育的な議論にこだわっているのである。このように型にはまった学芸職員の習性、それが博物館を理屈っぽくし、教科書的で、面白くないところにしてしまっているのである。展示の準備段階における論議は、実はそのあたりの問題を象徴しているように思えてならない。

「内容はあくまでも学問的に、表現は大胆すぎるほど、大胆に」これは展示に関する私の反省からえられた、「大衆的」の教訓なのである。

記念館の展示場には、解説員というお嬢さん方がいる。

いうまでもなく、彼女たちは直接、来館者に接する、いわば博物館の最前線の仕事にたずさわっている。この解説員制度も博物館として新しい試みであるといつてよい。当初、私自身、解説員について、それほど期待はなかった。しかし、時とともに、その役割の大きいことに気づきはじめたのである。それは、この解説員制度をどのように発展させるかによって、博物館が共に学ぶ広場になるか否かの方向づけがなされるように思われたからである。

彼女たちの強味は、基本的に、素人と素人の限界意識を明確にもつことが出来ることである。そして、素人の素人っぽさで、来館者に接し、博物館の意義、利用の方法、エチケット、マナーを語り、あるいは、その疑問に答え、逆に、疑問を投げかけ、その会話を通して、ひとびとの人間的表現を生のまま観察できるのである。

この「素人の素人っぽさ」の認識、それが、研究者や教師にはできない解説員の専門性であることは、つい最近、彼女たちから学んだことなのである。ともあれ、記念館の場合このような解説員と学芸

員との本格的なチームプレイができたとき、「大衆的な共に学ぶ広場」への道が、切り開かれるのであろう。

博物館活動が論じられるようになって、何年になるのだろうか。詳しいことは知らないが、博物館の研究や教育普及活動にはじまり、学芸員の専門性、社会的地位づけなど多くの問題が論議されている。だが、博物館活動とは、せんに結めると、研究と展示普及を通して大衆へ働きかけることなのである。そして、この活動なくしては、学芸員の社会的地位の問題はもちろん、

その他種々の障害を解決することはむずかしいであろう。つまり、現時点での博物館の活動は、研究普及と条件獲得の三位一体のものでなければ意味がない。そして、その活動の主体が学芸職員であることを認識してほしいものである。その意味で、学芸職員はオルガナイザといえるし、それが学芸員の専門性なのかもしれない。

道博協事務局の調査によると、昭和47年度の道内、博物館(園)の入館者総数は六〇〇万を越えたという。この数は、馬鹿にできない数である。

われ(この入館(園)者)は、大衆に何を働きかけ、何を学んだのだろうか。博物館活動において、いま必要なことは、いろいろな観点からの論議ではなく、これだけ多くの来館者に対する、それぞれの館の独創的で大衆的な働きかけを基礎として三位一体の活動実績を著実に積み重ねることなのである。これが博物館活動を発展させるための、もっとも博物館的方法ではないだろうか。

道博協理事

北海道開拓記念館学芸部長)

# 入館・園者数六、五六五、三八〇人

## 昭和四七年度

道博協加入館園の調査が昨年十一月に実施され、五八館園の報告がまとまり、近く各館園に資料として配布される予定である。

この調査によると、昭和四七年度(昭和47・4・1-48・3・31)までの協会加入五八館園の入館園者合計は、六五六五、三八〇人であることが明らかになった。

今までは、五百万人を越え

るであろうと推定されていたが、実数はそれを遙かに越えており、さらに四八年度は各館園とも入館者の数がふえている現状で、博物館の道民、来館者に与える影響の大きいことを強く自覚しなければならぬと思われ。

- 博物館関係 (四四館園)
- 二、六九三、四六〇人
- 水族館関係 (七館園)
- 三、四三三、八〇八人

- 科学館関係 (五館園)
- 三八五、九七三人
- 美術館関係 (二館園)
- 五三、一三九人
- 計(五八館園)
- 六、五六五、三八〇人

(昭和四十八年度についても、調査を行ない、資料として継続していく方針なので各館園の協力を願います。)

## 稚内に出来る青少年科学館

全道で八番目の青少年科学館が、稚内市に誕生します。総額三億三千万円で、本年七月オープンを目ざして建設がはじまります。この程、展示内容などが正式にきまつたので紹介致します。

建物は鉄筋二階建延べ一千八百三平方メートル、建築床面積は、千二百九十三平方メートル。一階には南極、科学、海洋と稚内独自のコーナーを設けます。南極コーナーは正面に置き入口には南極樺太犬タローの刺製を陳列する。タローの里帰りは、実現するまで運動を続けます。また第一次観測に活躍した、宗谷と現在の観測船「ふじ」の模型、南極で使用した犬ソリ、天幕を展示、色彩と音響で吹雪、犬の声などを再現して見せます。

## わが館の紹介

ここには長さ六・四メートル、五人乗りの深海潜水艦を置き、青少年が実際にこの潜水艦に乗りこんで、前方のスクリーンで海底の未来の姿を動感を与えながら見せる仕組みとしました。このコーナーにはトンネルを抜ける海底都市に、マッシュン方式の海底牧場、同農場、レジャーセンター、総合センター、海底鉄道と高速道路、海底電子力発電所等があります。ここから海上にでると海上都市、エネルギー源の核融合反応発電所、海上住宅街、海上工場団地、石油コンビナート、空港、教育関係施設等が一望できます。又中の仕組みがよく見えるプラスチック製のロボットが館内を歩くことになっています。これ等一階のコーナーが「観る」ことを中心にしているのに対し、二階は実験できる場所になります。各種の科学的な機械、器具の原理を実際に青少年が自分の手で実験、研究できる施設、それに生物関係の展示実験施設も設けられます。天文台は屈折二十七センチの望遠鏡を設置します。

稚内港が声聞まで埋立を完了する二十年後の姿を描く、パノラマを置き、トンネル、住宅、都市構造などをひと目でわかるようにします。また稚内を基地として世界の漁場に進出する姿も、地球儀を使って見せます。この海洋コーナーで、庄巻は海底都市と海上都市です。

稚内市教育委員会 飯田 勇

# 美術館の生き方

武田 厚

たまたま二つの美術雑誌（芸術新潮、美術手帖）に、同時に地方美術館の問題が取り上げられていた。ただし日本の公立美術館が中心になっているから、内容はすでにこれまで多く語られてきたことばかり。たとえば、コレクションの貧困さ、学芸員の不足とその質的問題、建物（施設）優先、狭義の地域性、活動の独自性など、特に新鮮さはな

い。むしろ、地方に点在する館の実状を熟知しないまま、要に地方美術館のパターンをきめつけたみたいなどころもあって気になった。それでも問題のところがえ方が利用者（大衆）の立場からのものであることは望ましいといえる。

とながら、美術館、博物館の生き方さえなかなか意味を持たないでいることの方が一層重要であろう。古い話を恐縮だが、二年前アメリカをちよつとまわって帰ったすぐのころ、金とヒマがあればこの世界を支え、発展させてゆけるという妙な印象を強くもってしまつて、経済大国日本の先行きもそう暗くない……などと思ふを抱いたこともあつ

た。まった、これは妄想でしかなくつた。当時アメリカの中級以上の美術館では、共通の合言葉を持っていた。  
"Museum Without wall"  
つまり壁のない美術館といった意味の言葉である。どこの館長も身をもり出して次のように語っていた。「美術館の壁に絵をかけて、観客にみせるだけの時代はとうに過ぎた。いまは、教育普及に全力を傾けている。大衆と美術館がいかにコミュニケーションしあえるか、それがこれからの美術館の社会的使命になるだろう。」

何も得るところはなかった。内容は当然すぎるが多かつたし、新企画に関して理事者（運営資金出資者）たちのならみがきいて、意外に保守的になつたりして、だが、われわれが抱く理想の美術館諸機能と、とにかく、認識の段階ではなく、すでに以前からほとんど実行してきている状況は、驚異といわざるを得ない。偉大な経済力が、美術館を通して、全地域住民の教育文化のために還元されることが常識となつたかに見えるアメリカだから、確かにそのことは多くの社会的問題を忘れさせる程のプラス面といえよう。裕福なはずのアメリカの美術館でさえ、「金が足りない」とこぼしている。しかし、そういうながら、彼等は自分たちの美術館がその地域で確実に「生きてゆく」ためにいま何をすべきか、ただそれだけを真剣に考えている。

## 資料館の夜警

富塚 勉

十月二十二日から少しの間、忘れていた宿直勤務をさせられ、色々と感じさせられた。

宿直勤務の理由は、国際反戦デー以後の一連のアイヌ活動家？の活発家に備えたいわ

## 想苑

さて、一体、博物館がアイヌ資料を展示保存することは、民族的差別なのだろうか。又は侮蔑なのか、さらに、卑下しようとするための何か、勿論、そんな考えは誰れ一人博物館人にももっていないと断言できる。

う、乾燥した魚、ハマナスの実を見て、若し、人里離れたところで遭難したときは、これを思い出してやろう、つまり、ハマナスの実は、ビタミン、魚は、脂質、ウバユリの根は、澱粉質をそれぞれ供給してくれるすばらしい食物と、これ自体は無言でも、数々のことを教えてくれるもの、それがなぜ、いけないと言われるのだろうか、勿論、人種、民族でないことは判っている。これを誰れか、理論的に教えてほしいものだ、つくづく考えながらの宿直警備でした。

れとこ資料館長！

しかし日本の場合も暗い状況ばかりではない。「日本博物館学界」の発起、「公立博物館の設置及び運営に関する基準」の告示、そして道内では、大学での博物館学講座の設置など、一步一步動いていることは確かである。

ば、防備的なものであった。私共の館では、アイヌ資料は微量なのでねらわれるとは思いませんでしたが、万一にも、職員二人を常備させ物々しい警戒体制、余談ですが、なかには、野球のバットに鉄カブトの用意まで、御苦労でしたといいたいところでした。

我が館の展示を見て、感じますのは、シントコは、和人がこの品物をもつて不当に高い労力を提供させ、かつ、異文化がアイヌ民族に入り込んだ、一つの歴史を示すもの

と考えるし、食物であつたら

しれとこ資料館長！

（新道立美術館建設準備室主任学芸員）

自然保護は対手が漠然としていたために、いろいろな人が違った見解を出すから、ややもすれば自然保護の趣旨がゆがめられる。一般には自然の景観を保護することが、主な目的のように思われている。だとすれば自然保護は観光のためというわけではない。

最近諸外国では、単に自然保護といわずに、自然並に資源保護という言葉が、しばしば使われる。資源にはもちろん、産業的資源や精神的な面もあり、文字や言葉では現わしくいたために無視されがちである。

昔の中国の諺に、国亡びて山河ありというのがある。われわれが無意識のうちに親しんでいた故郷の山野が、荒廃した晩に受ける、人間の淋しい感情を適切に表現したもので、自然が与える精神的な一面である。

地中海沿岸の早く開けた国々で、人間が長い間に荒らした緑の乏しい地方の、荒々しい民情と、北欧の国々のゆとりのある人々と接した時の感じの違いは、言語が通じなくても卒直に受けとられる。

自然界の諸現象は、今日おこった変化の結果が、明日現われるといったことは稀で、数年、数十年、時には数百年

# 自然保護

## 大衆の理解を

の後に出来る。  
一昨年は豪雨で高知県などに山崩れがあつて、多くの負傷者を出したが、山林の伐採が原因であつた。これなどは比較的早く結果が出た方で若し山林を毎年少しづつ伐り何年もかかって山崩れをおこす状態に徐々に近づいて行つたとしたら、原因が判らないと思われる。

安定した自然環境は、何年もかかって作り上げられたバランスのとれた状態であるから、その一部でも無方針に破壊したら、平衡が破れて悪いものもよらない災害を呼びおこす。

かつてドイツ北部の湿原を活用するために、アメリカから、毛皮動物のマスリラットというドブネズミの数倍ある大きな野生のネズミを輸入して放したところ、よく繁殖して毛皮を生産したが、貯水池の提防に穴を開けて住むために、数年後にダムが欠壊し洪水をおこし、大損害を受け、慌ててマスクラット退治をした。ネズミによって自然界のバランスが破れたのである。自然保護に当っては、基礎になる自然環境の研究を十分に、人々が納得して協力する様でなければ効果はない

犬飼哲夫

## 新協会の紹介

(団体会員)

- 新岡考古学資料室(枝幸町)
- 網走市立美術館(網走市南大)
- 戸井町郷土館(戸井町浜町)
- 帯広市青少年科学館(帯広市)
- 八雲町公民館郷土室(八雲町)
- 中標津町郷土館(中標津町)
- 利尻島郷土資料館(東利尻町)
- 北海道青函トンネル記念館

(福島町)

登別温泉ケーブル株式会社

(個人会員)

- 能島正一(小樽市博物館長)
- 米村哲英(網走市立郷土博物館長)
- 寺崎 かつ(北海道家庭学校)
- 山丸 武雄(白老民俗資料館)
- 久野 幸彦(丹靑社札幌出張所)
- 田中 秀明(乃村工芸札幌出張所)
- 北川 芳男(北海道開拓記念館)
- 大石 雅二
- 鬼谷 隆
- 矢野 牧夫

(賛助会員)  
加藤 勝雄(登別温泉ケーブル株式会社社長)

## 喫煙室

### 斜里町立しれとこ資料館

本町は、海岸線の延長は約一、〇〇kmと細長い町を形成しており、その海岸線一帯は保安林であるため、そのなかにある先住民の堅穴群は、そのまま保存されている。その数おおよそ三千ヶ所と推定されます。

その一部が、ホクレン馬鈴薯工場の廃液処理施設のため破壊されることになり、緊急発掘調査を行った、その発掘報告書がこの程発行されたので、ぜひ購入をお願いいたします。

- 宇津内遺跡発掘報告書 本文64ページ
- 図版一〇〇枚
- ¥二、五〇〇円
- ピラガ丘遺跡発掘報告書 本文64ページ
- ¥七五〇円

発行所 札幌市南八西十二丁目 みやま書房

## 協会の出版事業始まる

協会の出版事業については、関係者から要望されていたが、第十二回道博協大会(稚内)で理事に一任された。八月新役員会が開かれ、本年度は試験的に二、三のものを実施することになった。

現在のところ協会独自のものを編集するのではなく、会員等の発行している出版物を協会でも増刷して、希望者の手に入り安くするとともに普及事業の一つとする目的である。各館園で協会でも発行したらよいものがあつたら、事務局に積極的に申出ることを望んでいる。

第一号として北海道開拓記念館で発行した「にしん漁労」一漁夫とその生活」が出版された。希望者は事務局に申込またい。

にしん漁労

一漁夫とその生活  
B4版四〇頁  
実費二五〇円

## 編集後記

第二号の発刊がおくれたことをお詫びします。三号からはもっと充実したものにしたと思っています。ご意見、原稿をお送り願います。